

&lt; 認知症対応型共同生活介護用 &gt;

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4670103821
法人名	有限会社 十匠
事業所名	グループホーム 谷山中央
訪問調査日	平成 20 年 3 月 24 日
評価確定日	平成 20 年 5 月 14 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

#### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

#### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 4月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670103821
法人名	有限会社 十匠
事業所名	グループホーム 谷山中央
所在地	鹿児島県鹿児島市谷山中央二丁目69-1 (電話) 099-268-1765

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成20年3月24日   評価確定日   平成20年5月14日

【情報提供票より】( 20 年 3 月 8 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 8 月 6 日
ユニット数	2 ユニット   利用定員数計 18 人
職員数	16人   常勤 4 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 16 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り 2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分
------	-----------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48000円(光熱費込み)	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要( 3 月 8 日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	9 名	要介護2	4 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢 平均	83.4 歳	最低	60 歳
		最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	谷山緑地病院・田之畑クリニック・浜田しのぶ歯科医院
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅街の中に位置し、近くには緑地公園や産業道路もあり空間が広がり、心地よい散歩コースも得られ小学校やスーパーもあり、地域密着型そのものの地にある。  
運営方針とその理念に基づき入居者の人格を尊重し常に入居者の立場に立ったサービスの提供に努め、「優しさと真心」で「幸せと笑顔の絶えない環境づくり」を目指している。今後とも「地域との交流を深める介護」を勧めつつある。職員が一致団結し連携よろしくして明るい雰囲気業務に携わっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	別紙にて掲載
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価は全職員で取り組みサービスの質の確保に生かしていこうとする姿勢が伺える。入所者家族との交流を大切に思い、面会時の声かけを意識して良くし、意見箱の置き場所を配慮したりと具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議には町内会長・家族代表等出席し入所者の生活の様子や外部評価の結果を公表し行事参加や地域での役割について話し合い、地域での理解を得るべく取り組んでいる。避難訓練や救急時対処についても意見があり、今後ホームとして訓練や研修に取り入れていく計画である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	年3回は家族会を開催し意見等を頂けるように配慮している。家族の要望を聞き県外への職員の付き添いもサービス向上に反映している。入所者の体調に変化がある時は連絡し診療への便宜を図り家族に対してきめ細かい配慮がなされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	ホームは住宅地の中に位置し、よく買い物や散歩に出かけ、隣近所のお付き合いがある。地域の人々の手作りの野菜の差し入れもあり、双方支えあいの関係ができてい。又、自治会にも加入して、十五夜行事・敬老会・校区の運動会にも参加し、地域の人々との交流も積極的に行われている。

## 別紙 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)

前回評価での主な改善課題は 運営理念の明示 運営理念の啓発 介護計画の見直し 継続的な研修の受講 市町村との関わりがあげられている。

理念の明示はホーム内にも掲げてある。又、重要事項説明書の運営方針の文中「利用者の人権を尊重し…」とあり、事業所の義務として「プライバシーを守り、安心と尊厳を実現するよう…」と示している。

理念の啓発は利用者家族には行事を通じ、できているが、地域の啓発は今後町内会等に対し、理解してもらえるよう取り組んでいく予定である。


介護計画の見直しは計画の期間に応じ概ね1年位で見直し、なお入所後や退院後、利用者の体調、家族の状況に応じ臨機応変に対応している。

継続的な研修は管理者自ら健康管理的事項は職員に適宜教育している。今後研修計画を立て外部・内部研修の機会を持つ予定である。

市町村との関わりにおいては今後積極的に情報提供し、運営の実態を共有しながら課題解決を図る予定である。



## 2. 評価結果 (詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者のそれまでの生活習慣や価値観を重要視し、個別会議を行なうと共に自尊心を傷つけないよう心しながら「優しさと真心であなたらしさを大切に、幸せと笑顔の絶えない暮らしの環境づくり」を理念としている。又、「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」をよく理解し「地域での交流を深める介護」も掲げ、かつ実践し地域密着型サービスの役割を考えた理念となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝ミーティング後、理念の唱和を行い又時には入所者と共に唱和し職員・入所者共々意識するように取り組んでいる。「職員は優しさと真心で」声かけをよろしくし、又先走って手を出すことを控え入所者のできることはなるべくしてもらい「できることを共に探り」そして買い物や地域での民謡教室にも通ったりして、「地域での交流を深める介護」の実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは住宅地の中に位置し、散歩に出かけ会話を交わし近所から野菜や手打ち蕎麦やちまきの差し入れがあったりとお付き合いができています。又玄関周りに菜園したり、ベンチを置いて地域の方々が時には腰を下ろして気軽にお喋りしたりと双方支えあいの関係ができています。又自治会にも加入し校区の運動会・十五夜行事・敬老会にも参加し同庭にあるマンションの住民や地域の人々との交流も積極的に行なわれています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員は評価のねらいやその意義活用方法についてはよく理解している。評価は管理者・全職員で取り組みサービスの質の確保に活かしていこうとする姿勢が伺える。入居者家族との交流を大切に思い面会時等声かけを意識して良くし、又、意見箱の置き場所に配慮したりと具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には町内会長・家族代表が出席し開催している。ホーム側から入居者の生活の様子や外部評価の結果を公表し、又、行事参加や地域での役割等について話し合い、地域の理解と支援を得るべく取り組んでいる。出席者の中からは火災避難訓練や救急時蘇生法についても意見があり、今後ホームとして訓練や研修に取り入れていく予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在、市町村担当者に対してグループホーム側からの積極的関わりはもたれていない。		今後市町村担当者にグループホームから積極的に情報提供し、運営の実態を共有しながら課題解決を図ることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的に発行するほほえみ新聞に写真も添えて入居者の日常の暮らしぶりや健康状態等お知らせしている。又、家族の面会時や家族会等を利用し、状況報告をしている。体調の急変時は家族に電話連絡し、家族同伴の受診時は最近の体調について記した手紙を渡し診療への便宜を図り家族に対してきめ細かい配慮がなされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	5月・9月・12月と年3回は家族会儀を開催し、意見等頂けるようになっている。又、面会時職員はよく声かけし要望等伺うように細かく気遣っている。家族の依頼により職員が2人付き添い名古屋まで出かけたり、霧島温泉に案内したりとサービス向上に反映している。なお玄関には意見箱も置き、意見や苦情を表せる機会づくりがなされている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動は必要最小限に止め、働きやすい雰囲気や環境づくりに努めている。職員のよい部分を生かし、コミュニケーションをよしくとり、ユニット間の交流もしながら入居者へのダメージを防ぐ配慮もなされている。今後も職員の相談相手になり人材定着に向けて努力していく予定である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者自身看護師であり、特に入居者の心身の健康管理的内容においては指導者として職員に教育している。季節によりノロウィルスやインフルエンザ等流行時はOJTを強化し指導に当たっている。今後は年度研修計画を立て外部内部研修の機会を増やしていく予定である。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同事業所と月に1回の交流を持ち、研修、情報交換等している。		今後は年間を通じ可能な限り同業者との交流連携を持ち、日々のサービスや職員育成に役立て、ひいては地域全体のサービス水準の向上に寄与されることを希望します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>相談から利用に至るまでに、日常生活やできること・できないこと等個別に情報収集し支援を見極め家族と相談しながら本人本位の援助を心掛けている。</p> <p>入居前には本人、家族共々ホームを見学してもらい、一緒に昼ご飯を食べ、お茶を飲み、ホームの雰囲気を知ってもらい納得しての入居ができるよう図っている。</p>		
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々の関わりの中で場面をうまく捉え人生の大先輩としての尊厳を支えながら知恵をもらっている。味付けを教わったり盆行事に何をするか問いかけたりして、支えあう関係ができています。時にはお風呂も一緒に入り喜びや楽しみを共感している。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の生活歴を基に「できること・出来ないこと」の生活機能をまるごと捉えるアセスメントシートに記録をとり又、「何をしたいか・どう過ごしたいか」等も会話や表情から捉えている。職員は入居者一人ひとりの思いや要望を大切にケアにあたることの大切さが意識付けられている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族から詳細な情報収集をし、やりたいことや要望を聞きこのホームの一人として地域住民の一人として暮らされるよう計画に盛り込んでいる。</p> <p>本人の希望で毎日一万歩歩行をプランニングし、職員共々ウォーキングを楽しみ、本人や家族の意向に添った計画実行となっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>看護計画の期間に応じ、概ね1年位で見直している。なお入所後3ヶ月・病院退院後も見直しを行い、本人の体調や家族の状況に応じ、適宜に見直し柔軟かつ臨機応変な対応に努めている。今後は特に変化のない入居者の場合も月に1回程度はあえて見直し検討をし、予防的支援からケアへの配慮も望まれる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームは住宅街の中に位置しており、近くのスーパーやレストランへ出かけ買い物や食事をして公園への散歩を促し又、通院時移送サービスをしている。本人や家族の要望により霧島や名古屋まで付き添って出かける等特別な外出の支援も行い個々の満足を高めホームの多機能性を発揮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を受け医療機関の確保ができています。夜間・休日の体調急変時にも受診できるよう医療機関を確保している。通院介助を行なった時や或いは家族が通院介護に携わった時等、双方情報を共有し家族、医療機関とも関係を密にしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について家族の意見を聞きその要望に添うよう職員間でも話し合いを進めている。なお家族会でも話題にあげ、本人、家族が望む終末を迎えられるよう関係者全体の方針の統一を図りつつある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者一人ひとりの尊厳を守ることの大切さをよく理解している。日常的には言葉遣いに配慮し各部屋にはプライバシー保護の意味から名札もつけてない。なお記録物も個人情報保護の観点から細心の注意が払われ保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が主体となって毎日が過ごせるよう日々の中で職員は一人ひとりのペースに合わせ支援している。その日やりたいことを聞き買い物に行き、花壇の草むしりをしたり、ぬり絵を楽しんだりと本人の希望に添っている。又起床・就寝も本人本位とし朝食は起床の早い人から食べてもらおう等本人の望む過ごし方ができるよう柔軟に支援している。		



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者個々の力量や体調を配慮しながら、職員と共に買い物に出かけ、調理、盛り付け、後片付け等一緒に行なっている。毎日の献立や行事食に入居者の好みを取り入れ、食への喜びや楽しみを引き出している。なお職員は同食卓と一緒に食事を取り、楽しく会話しながら意義ある時間が過ごせるよう支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回は入浴できるよう配慮している。入浴順番の取り決め等はなく入居者一人ひとりの気持ちを大切に希望に添って入浴可能にしている。時には職員も一緒に入浴し不安や恐怖心、抵抗感を和らげるよう入浴支援がなさせている。今後は入居者の希望に合わせて温泉や散歩コースにある足湯も利用し個別の支援も計画している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの力量や要望に合わせて役割や楽しみ事、気晴らしへの支援がなされている。デパートへ買い物に行きドライブを楽しみ、外食に舌鼓を打ち毎日の暮らしの中に変化をもたらす生きる事への支援がなされている。又、ホーム内においては朝の掃除に始まり配膳、食器洗い、洗濯物たたみ等役割をもってもらい、暮らしを楽しめるよう働きかけている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	四季を通じ入居者の要望も取り入れている。数種の散歩コースも計画され景色を楽しみ店先を眺めながら気分転換やストレス発散ができるよう支援している。要望により帰宅も可能にし、遠くは知覧特攻基地にも出向いている。日常的には庭先に出て花壇いじりや近所の人々との会話もでき、屋内だけで過ごさぬよう職員は配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠するが昼間は玄関、裏口、居室の窓共鍵はしていない。職員は外出傾向にある入居者をよく分かっており、常にチェックしている。なお玄関のチャイムの音でも分かり逸早く対応し安全確保もできている。職員は鍵をかけない暮らしの大切さをよく意識しており、見守りを徹底している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導の下、入居者職員共に避難訓練を実施している。不定期に予告なく訓練することもある。災害に備え飲料水、食品、ティッシュペーパー、三角巾等常備している。		今後は地震、水害等も想定し具体的な非難誘導策をきめ、ホームだけでなく地域住民の参加、協力も得て訓練することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの栄養摂取量について1日3食おやつも含めてその分量は把握されている。特に水分摂取量については10時・15時・夜間にもお茶タイムを実施しており、水分をあまり摂取しない入居者には飲み物の工夫やゼリーにする工夫をしている。1日最低でも1200cc程度は取れるよう支援している。特にカロリーチェックの必要な入居者には摂取量に注意し水分は主治医と情報共有し、食事に反映している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用居間は食卓・ソファ・テレビがあり、入居者はそれぞれ好みの場所がある様子が伺える。季節の花が要所要所に飾られていて台所から美味しそうなにおいが漂い、窓からは心地よい風が入り生活感、季節感を感じてもらおう場所づくりがなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた家具や洋服かけ、小物等もち込み、又、仏壇や神棚も置き不安やダメージを少なくして居心地よく過ごせるよう配慮されている。家族も宿泊し入居者と一緒に過ごせるよう居室の環境づくりがなされている。		